



# いんばぬまの「水循環」について教えて!

## 「水循環」とは?

地球上の水は、海水などの塩水が97.47%、淡水が2.53%の割合となっています。

これらは、常に同じ場所に留まっているのではなく、海水や地表の水が蒸発し、上空で雲になり、やがて雨や雪になって地表に降り、それが次第に集まり川となって海に至るというように、絶えず循環しています。

この水循環を健全に保つことが持続的な社会を築く上で極めて重要になります。

出典：「いんばぬま情報広場」(印旛沼流域水循環健全化会議HP)



## 印旛沼の水循環上の主な課題

### (1) 水質問題

近年の急激な都市化による生活環境の変化や社会経済活動等の影響により、水質が悪化しています。水質の指標となるCODは環境基準(COD75%値:3mg/L)を大幅に上回り、2007(平成19)年度には、全国湖沼水質のワースト1となってしまいました。

### (2) 生態系の変化

印旛沼の水源(湧水)を涵養する流域の台地や、湧水が湧き出る里山や谷津の環境が変容し、多くの在来動植物が減少・消滅する中で、ブラックバスやカミツキガメ、ナガエツルノゲイトウ等の外来種が侵入・繁殖する等、生態系も日々悪化しています。

### (3) 洪水・渇水リスク

流域では、住宅開発等の急激な土地利用変化等により洪水流量が増加し、浸水等の水害が発生しています。さらに今後、地球温暖化による影響も懸念され、少雨・多雨など気候の極端化が進むと予想されています。

出典：「いんばぬま情報広場」(印旛沼流域水循環健全化会議HP)

## 印旛沼流域の水循環

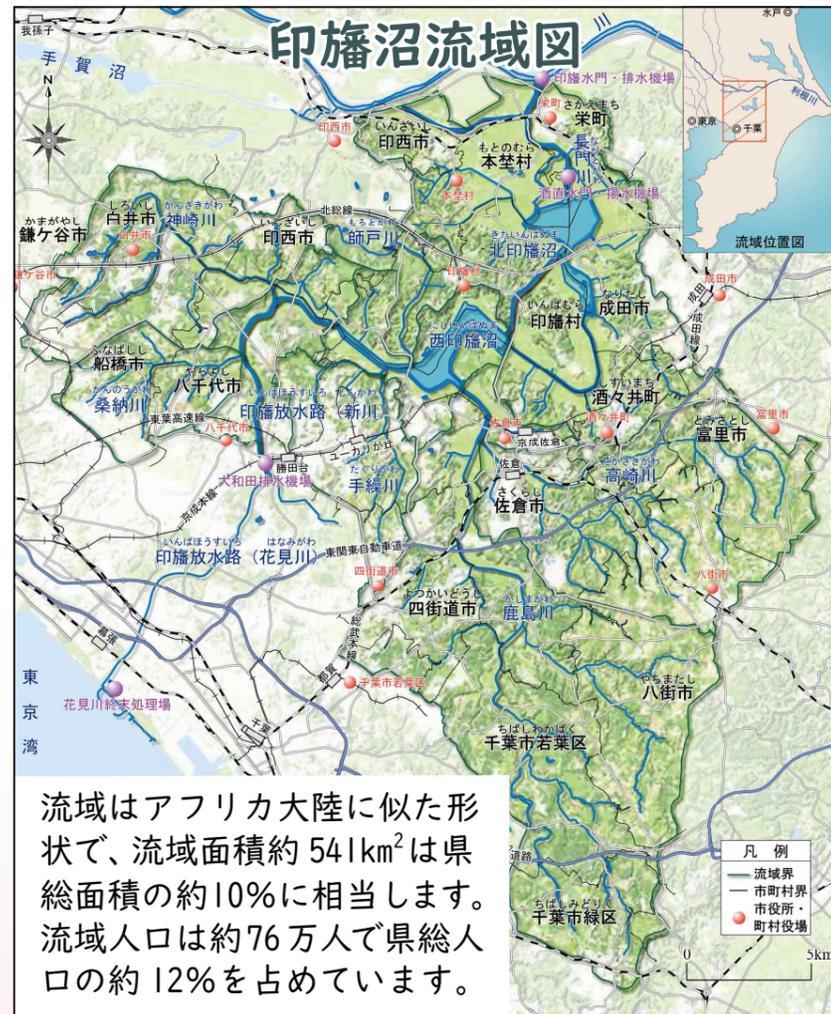
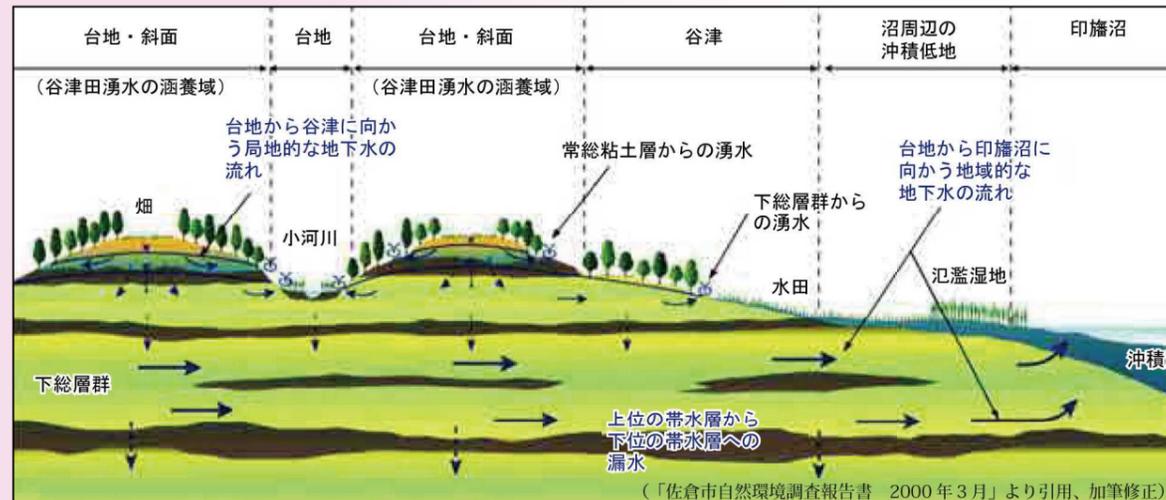
印旛沼流域は、「台地」(下総台地)、「谷津」(台地が浸食された谷底低地)、「谷津に面した斜面や崖」から構成されています。

台地は保水性・透水性の優れた関東ローム層で覆われ、台地や斜面に降った雨は、地表を流れる水、または地下へ浸透して湧水となって印旛沼に流入します。さらに地中(帯水層)の水の流れも上位から下位へと浸透し、いずれは印旛沼へ流入します。

谷津は、台地に枝状に入り組んだ地形で、印旛沼流域特有の地形です。崖は斜面林に覆われ、多くの湧水が湧き、印旛沼の水源となっています。

印旛沼流域では、このような地形を背景に、谷津頭や斜面からの豊富な湧水が湧出して、流域の自然環境や人の暮らしの基本的な要素となっています。

出典：「いんばぬま情報広場」(印旛沼流域水循環健全化会議HP)



流域はアフリカ大陸に似た形状で、流域面積約541km<sup>2</sup>は県総面積の約10%に相当します。流域人口は約76万人で県総人口の約12%を占めています。

## 印旛沼流域水循環健全化会議

こうした諸課題に対し、印旛沼を「恵みの沼」として再生し、次世代に継承することを目的に、流域の関係者(住民・市民団体、専門家、関係機関、行政等)で構成される「印旛沼流域水循環健全化会議」が2001年10月に発足しました。

2004年2月には住民と行政が一体となって当面できることを効率的かつ集中的に実行するための「緊急行動計画」が策定され、現在は2030年度を目標年次とした「印旛沼流域水循環健全化計画」に基づき、住民・市民団体や行政等によるさまざまな取組が実施されています。

詳細は同会議ホームページ「いんばぬま情報広場」をごらんください。



水が色える豊かな社会

独立行政法人 Japan Water Agency 水資源機構

みず し げん き こう

独立行政法人 水資源機構

千葉用水総管理所

千葉県八千代市村上3139(大和田機場横) TEL(047)483-0722